

脊椎・脊髄傷害の症状（I）

まず、上肢の症状、手の症状についてです。全部書くのは難しいので、手の症状、頸髄、頸の脊髄がやられたときに、どんな症状が出るかというのを説明します。

1つは、上肢、手の痛みとかしびれです。痛みとしびれはちょっと違うんですけども、神経が押されたりすると、そのレベルと痛みがでてきますね。あるいはジンジンとしたしびれがでてくるということがあります。あと、手の動きがぎこちない、細かな作業が出来ない、ボタンを留めにくいとか、箸が持ちにくいとかの巧緻運動障害。もっと進むと、筋力の低下であったり、筋萎縮というのがでてきます。これはもちろん脊髄だけじゃなくて、脳でもでてきますし、他の末梢神経でも出てきますけども脊髄には脊髄の特徴的な症状の出方があります。

しびれについて

いろんな意味でしびれという言葉を使うことがありますけれど、患者さんが、手がしびれるんですというふうに言った場合には、1つは知覚鈍麻、感覚が鈍いことをしびれということもあります。ジンジンとかビリビリする異常感覚をしびれということもあります。ちょうど正座したときに脚がしびれる感じですね。チクチク、ピリピリすることをしびれということもあります。ジンジンとかビリビリとか濁音で表現するしびれと、ピリピリとかチクチクと表現するしびれとでは、実はメカニズムが違うんだというふうに言われています。これは、僕は神経内科の先生に教えていただいたことです。運動麻痺もしびれというふうに、しびれて脚が動かないというふうに表現することがあります。一般的には異常感覚をしびれというふうに言っています。しびれというのは、原因が脊髄と関係があるとは限らないですけど、神経が悲鳴を上げているんだということです。神経の病気がどこかに隠されている。ですからどこがしびれるのか、どういう時にしびれるのかというのを細かく分析することで、病気を診断することが出来るというふうに考えます。

巧緻運動障害の症状

細かな作業が出来ないという状態を、難しい言葉ですけど巧緻運動障害と呼んでいます。

巧緻運動障害がありますかと患者さんに聞いてもわからないので、箸は使えますか？小さなお豆とか持てますか？あるいは字は書けますか？場合によってはそこで、ちょっと名前を書いてくれませんか？というふうに言えばいいんです。お財布を出したときに小銭がうまくつまめない、あるいはボタンがかけられない、紐が結べない。こういうようなことが、巧緻運動障害の症状ですね。男性の患者さんには、ネクタイは締められますかとか、ボタンがかけられますかというような聞き方をします。

巧緻運動障害（こうちうんどうしょうがい）：

1. 箸が使えない
2. 字が下手になった
3. 小銭がつかみにくい
4. ボタンがかけられない
5. ひもが結びにくい

巧緻運動障害が簡単にテストできるのは、10秒テストです。10秒の間にグーパー何回できるか。30回できればこれは満点です。20回でも大丈夫ですね。20回を切ると、ちょっと日常生活で箸が使いづらいとか、字が下手になったとかのおそらく自覚症状が出てくるだろうと思います。10秒間に10回だと、1秒に1回しかできないことになりまますから、非常に不自由な生活を送られている方だと思えます。



10秒テスト

(グーパーが何回できますか?)